



教育センターニュース

四日市市教育委員会 教育支援課
〒510-0085 四日市市誠訪町2-2 (四日市市総合会館6階)
TEL 354-8283 (代) FAX 359-0280

ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>

教育支援課
マスコットキャラクター
しえん君



特別支援教育の充実に向けて

教育支援課 西浦 昌宏

当課への転勤を機に、事務局内はもちろん庁舎内の友人、知人と会う機会が増えた。先日も総合会館二階の「社会福祉協議会」に古い友人を訪ねた。彼から差し出された名刺には、見慣れないくぼみ(ノッチ)があり、中ほどに点字が記されていた。そのとき私は「さすがだな」としか伝えられず、知識と意識の乏しさを痛感するとともに、改めて自身が担当する職務について考えるきっかけとなった。

かつての職場の同僚が、特別支援学級担当教員の特別支援学校教諭免許状保有率について、三重県が最低であることを文部科学省の所管事項説明会へ行く度に指摘されると嘆いていた。残念ながら、この状況は現在もあまり変わっていないようである。一方、

特別支援学級の設置率では全国の上位に位置する。ここで課題となるのは、この状況下で特別支援教育の専門性をいかに担保していくのかということである。統計に基づいた文部科学省の指摘は当然のことであるが、特別支援教育にかかわる者にとって、その専門性を高めることは文科省に言われるまでもなく必要なことである。たとえ、教育職員免許法の新設(教育職員免許法附則第十六項)が今後も残っていたとしても…。

さて、当市はというと、以前からほとんどの小中学校に特別支援学級があり、平成二十五年度は全ての小中学校に設置されている。この環境の下、古くから特別支援教育に学校全体で取り組む姿勢が見られ、特別支援教育に向

かう考え方、スキルは自ずと身につけてきていると感じる。この学校全体で取り組む体制ができていくことは、四日市市の最大の強みであると思う。この感覚をより確かなものにして、この強みを最大限に活かしていくには、やはり専門性を高めることが不可欠となる。

今後の教育現場での地道な取り組みに期待するとともに、教育支援課として、特別支援教育の更なる充実に向かって、すべての教員の専門性を高めるための事業や研修を展開していきたいと考えている。





平成25年度 重点事業

教育支援課 研修・研究グループ

本市の学校教育ビジョンに基づき、今日的な教育課題に対応した研修を実施し、教職員の専門性と実践的指導力を高めるとともに、幅広い視野を備えた教職員の育成および資質・能力の向上を目指します。

1

「教師力向上研修」の推進

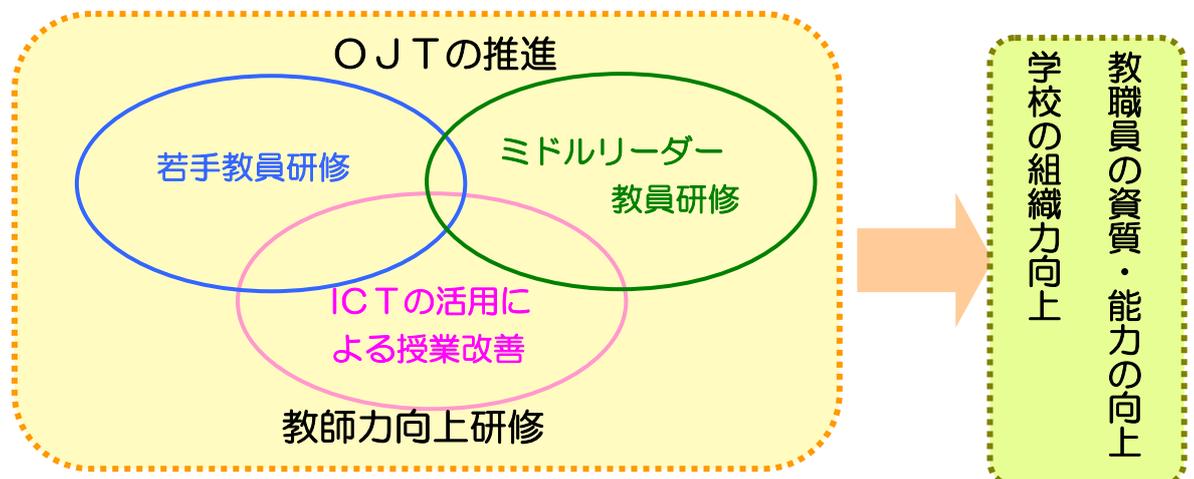
187講座 203日

- ① 昨年度「教師力向上研修」として研修の名称を変更し、研修のより一層の充実を図ってきました。今年度も、自己分析・自己研鑽・振り返りをスムーズに行い、全教職員の更なる資質・能力の向上を図るとともに、学校・園全体の教育力を高めます。
- ② 個人目標達成のための受講選択が容易になるよう、受講対象者や研修のねらいを明確にした実践的な教職員研修講座を実施します。
- ③ 各学校・園でのOJTを円滑にすすめるために、センターニュースやサポートメールを使って適時にサポート情報を配信します。

2

若手教員やミドルリーダー教員の育成

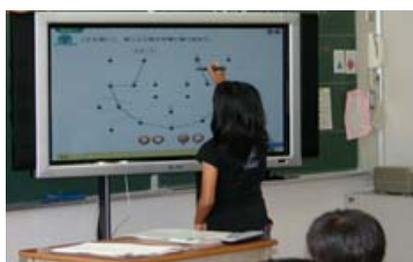
- ① 初任から2年目の教諭及び1～2年目の講師を対象に、若手教員研修を実施します。若手教員の授業づくりや学級経営についての研修講座を充実させるとともに、教育アドバイザーと連携して授業訪問支援を行います。
- ② 30～40歳代前半の教員を対象に、学校運営の要となるミドルリーダー教員研修を実施します。学校運営に役立つ研修講座を実施するとともに、若手教員の育成に携わる立場としての在り方について助言・支援します。



3

授業や校務へのICT活用の推進

ICTを活用した
「わかりやすい授業」



- ICTの効果的な活用によって、子どもの学ぶ意欲・関心を高め、わかりやすい授業を行います。
- 様々な問題に対し、子どもが目的に応じてICTを活用し、問題解決していく力を育てます。

ICTを活用した
「校務の効率化」



- 市・校内サーバに情報を共有化し、一元化を図ります。
- 教員・学校間でメールや掲示板等を使い、事務の効率化を図ります。
- デジタル教科書、デジタルコンテンツ、問題データベースを利用し教材準備の効率化を図ります。

情報モラルの向上
「セキュリティ」の遵守



- 市の運用規定を遵守し、情報の適正な管理・運営を行います。
- 個人情報を持ち出しません。子どもの安全・安心を守ります。

平成25年度 重点事業

教育支援課 特別支援教育・相談グループ



「途切れのない支援」を目指し、関係機関と連携しながら特別支援教育を推進していきます。発達障害等で困り感のある児童生徒とその保護者や教師への教育相談を行い、不応状態の改善や不登校児童生徒の学校復帰を目指します。

1

校・園内特別支援教育推進体制の充実

校・園内委員会（含ケース会議）の定期的・計画的開催を目指します
「動く情報ツール」として、相談支援ファイル活用を進めます

校・園内における特別支援教育の一層の充実には、校・園内委員会を効果的に機能させることが必要です。また、年々所有者が増えてきている相談支援ファイルについては、「動く情報ツール」としての活用が期待されています。校・園内コーディネーター担当者研修会を年3回実施し、校・園内委員会の運営方法や、相談支援ファイルの活用方法、個別の指導計画の作成方法等の研修を通して、校・園内 Co の資質向上を図ります。

2

巡回教育相談

要請のあった小・中学校へ巡回訪問（臨床心理士 今尾真弓さん）

学校生活をおくる上で課題のある発達障害等の児童生徒について、授業等の様子を見た上で、支援の内容と方法を学校に助言します。また、不登校リスク群の児童生徒についても、ケース会議に参加し、今後の方向性を見出すために先生方と共に考えます。

全中学校へ巡回訪問（特別支援教育士スーパーバイザー小栗正幸先生）

全中学校に年間2回訪問します。発達障害等の生徒について、具体的な支援方法を助言します。

3

教育支援課での教育相談

不登校と発達に課題のある子どもについての相談



不登校や心に悩み・不安のある子どもへの支援として、相談員やセラピストがカウンセリングやプレイセラピー等を行います。継続的な来所相談を経て、子どもの心のエネルギーが回復されたときには、「わくわく教室」「ふれあい教室」を勧めることもあります。発達等に課題のある子どもや障害のある子どもへの支援として、来所相談や学校や園への巡回教育相談を行います。また、必要に応じて、諸検査を行ったり、専門医と相談したりすることができます。

4

適応指導教室（わくわく教室、ふれあい教室）

小学生を対象とした「わくわく教室」では、小集団での遊び体験を通して行うソーシャルスキルトレーニングや自信を高めるための学習活動を行います。中学生の「ふれあい教室」では、教育相談やカウンセリングを行った後、集団による学習活動や体験活動を通して、子どもたちの学校復帰に向けての支援や、社会的自立を促す支援を行います。

また、引きこもりがちな子どもの家庭には、学生ボランティア（ふれあいフレンド）を派遣し、子どもの心の安定を図り、自立への支援を行います。

5

四日市早期支援ネットワーク ^{イエスネット} (YESnet)

YESnet (Yokkaichi Early intervention Service network) は、四日市市を拠点に、子どもたちのこころの病気の早期発見・早期支援のために、教育委員会、保健所、医療機関がネットワークを結んで取り組んでいる事業です。

- 子どもに心が不安定などの気になる症状がみられたら、教育支援課まで相談してください。必要に応じて YESnet 連絡会議で事例検討を行い、具体的な支援の方法について話し合い、医療との連携の必要性等について検討していきます。
- YESnet スタッフが学校へ出向いて、出前相談や子どもたちのこころの病気について理解が深まるよう出前研修を行います。
- 昨年度に引き続き、YESnet スタッフが学校へ出向いて、中学生を対象に「心の健康 ストレスをぶっ飛ばせ」の授業を行います。